

平成23年

季刊

夏季号

Vol.38

亞東



社団法人亜東親善協会第四十回通常総会・講演会 勝田吉太郎先生



社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七—五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び幹旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の幹旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で、昭和二十四年（一九四九年）東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。

第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。

その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、昭和四十七年（一九七二年）の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち昭和四十六年（一九七一年）、千葉三郎先生（衆議院議員、労働大臣）は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り自ら發起人となり同年五月二十九日『社団法人亜東親善協会』（外務省認可）を設立したのであります。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、内外の信望を集めました。その後、原先生の意を受け、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、幾多の変遷を経て参りました。

現在、日本を始め東アジア諸国は、台湾海峡問題と北朝鮮の核問題という二つの問題があります。この両問題には中国は大きく関わっています。かかる情勢の中で本協会の目的達成事業が発展することは、アジアの繁栄と平和に貢献するものと信じております。平成十三年まさに二十一世紀の幕開けを期して、玉澤徳一郎先生を迎え、さらに陣容を強化し、英知を結集して努力を続けている次第です。

社団法人亜東親善協会

平成二十二年五月二一日（木）

ホテル・ルポール麹町

張建國副会長が議長となり

第四〇会通常総会が開催された。



総会後、設立四〇周年記念講演会、懇親会が開かれ、懇親会には台北駐日経済文化代表處・馮寄台駐日大使が来賓として出席された。

この日の懇親会は「頑張れ日本」「頑張れ東北」という趣旨で開催されたもので、懇親会の冒頭、出席者全員で、東日本大震災の犠牲者に対し、黙祷を捧げた。

設立四〇周年記念講演会

大江康弘副会長が、設立四〇周年記念講演会の講師・勝田吉太郎・京都大学名誉教授、鈴鹿国際大学名誉教授の紹介があり、本日、京都までお迎えに上がったとのことでした。

勝田吉太郎先生は「爛熟民主主義文明の行方」と題し、ギリシャの盟主であったアテナが覇を唱え、物欲だけは太に発展



した「爛熟（物欲）民主主義」により国が崩壊していく経過を説明した。

その中では、爛熟民主主義に内在される誤った平等主義化の野放図な出現、敗戦後の平和主義、経済が再復興し、またも同じように爛熟（物欲）民主主義が蔓延し、国家崩壊の轍を踏んでいた姿が紹介され、現在の日本もまさに同様の道を歩んで

いると警告を發し、「ギリシャの物欲（欲望）民主主義のなれの果てについて知った上で、日本の未来を考えるべきである。政治家も有権者（票）に反応を恐れ、甘言を弄してはならない。耳に痛いことでも言うべきこととは言わなければならない」と力説した。

懇親会

玉澤徳一郎会長は、「この度の震災に対し、台湾からの義捐金が一五〇億円になった。我々はこれに応え、日本の復興に全力を尽くす決意をした」と述べた。

さらに「亜東親善協会は、今の日本の危機にいかに対応していくか、アジアの平和を守るためにどのような行動をしていくべきかを、追及し、今年も頑張っていく」との考えを示した。

馮寄台大使が挨拶に立ち、社団法人亜東親善協会が設立以来、一貫して日本と台湾との友好促進のために尽力し、着実に成果を挙げていることに感謝の意と敬意を表された。



さらに、東日本大震災で日本が甚大な被害を被ったことに對し、「我々台湾人も日本の痛みを深く身にしてみている。一九九九年の台湾中部大地震、二〇〇九年の台湾南部大水害における被害はいずれも甚大であったが、日本政府および民間がただちに救援隊の派遣や物資提供など、台湾の復興にご支援いただいた。これに對し、我々は深く感謝し、今でも忘れてはいない。

三月一八日には馬英九總統夫妻もテレビの赤十字チャリティ番組に出演し、国民に積極的な募金を呼びかけ、四時間で約二一億円の寄付が集まった。現在までに、台湾の国内全体から寄せられた義捐金は一六五億円を超えた」と話された。

その上で、「この義捐金は日本の災害復興には、僅かな額であ

るが、これは台湾人の日本に對する深い心情を表すものである。私は台湾の政府と国民を代表し、一日も早い日本の復興を願っている」と述べた。

また、台湾南部の烏山頭ダムを建設した日本人技師、八田與一氏の功績を顕彰する「八田與一記念公園」の開園式が五月八日に、馬總統出席の下で開催されたことにも触れ、「馬總統は、森喜朗・元総理をはじめ二五名の国会議員を前に挨拶し、『この記念公園を台日間の新しい架け橋とし、台湾と日本が未来志向で協力していけると信じている。私は友日派の台湾の總統だ』と強調した」と述べられた。

当協会顧問・岩城光英參議院議員のご発声で献杯し、懇親会が開始された。

「ありがとうございます、台湾」

社団法人亜東親善協会顧問
衆議院議員 井上 信治

中華民国建国百周年、誠におめでとうございます。また、日台両国間の友好のため大変重要な役割を担ってきた、亜東親善協会の社団法人化から四十周年の記念すべき年でもあります。貴協会のますますの発展を期待しています。

先ず、今年三月十一日に発生した東日本大震災で被災された方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。そして、台湾からも総額百七十億円もの義援金や多くの救援物資をいただきましたことに、心から感謝の意を表します。また、多くの日本人有志が、こうした台湾の方々のご厚情に対して、日台両国の新聞紙面に「ありがとうございます、台湾」という感謝広告を自主的に掲載

したことも、大変嬉しいニュースでした。この両件に共通することは、政府主導ではなく、日台両国の一般の国民が、相手国に対し最大限の思いやりと感謝を込めて、実際に行動に移したということです。

そもそも、日台両国の国民は七〇八割程度がお互いに親近感を感じている、という回答が、いつのアンケート調査でも寄せられています。これも、貴協会をはじめ多くの日台関係者の皆さまが、多年にわたり草の根で様々な友好活動に励んでこられたことの大きな成果であると、あらためて感銘しています。

私も、大震災直後から、何かできることはないかと考え、若手の仲間と一緒に「自民党東日本巨大地震・津波緊急災害対策本部」の事務局次長として、義援金や救援物資の募集・配送をはじめとした初動対応や、政府・与党への多くの政策提言等

に全力で取り組んできました。

また、国会においても、「衆議院東日本大震災復興特別委員会」の委員として、被災地の復興の柱となる「復興基本法」を議員立法で提出し、与野党協議を経て成立させることができました。

今後は、東日本大震災からの復興に一日も早く復活をつけ、日本がもう一度復活することこそが、温かい支援の手をさしのべてくれた台湾をはじめ世界各國の皆さまの思いに応えることであると信じ、与野党が一致協力し、全国民が一九と一となって頑張つてまいります。

私も、八年前の初当選以来、日台友好の架け橋を結んできた伝統ある自由民主党青年局のメンバーとして、また特に昨年まで三年間は青年局長として、多くの日台関係者と知遇を得、両国関係の発展に微力を尽くすことが出来ました。このことを大

変誇りに思い、私のこれからの政治活動においても貴重な財産であると確信しています。青年局長の任期中、十数回の訪台を果たし、昨年自民党青年局海外研修、自民党東京都連青年部・海外研修、羽田・松山間航空路線の就航記念式典への出席と、三度にわたつて台湾を訪れました。

残念ながら、国会日程や東日本大震災の発生により、今年はこれまで台湾を訪問することが出来ませんでした。しかし、建国一〇〇周年の栄えある本年、また若手の仲間と一緒に訪台することが出来る日を楽しみにしております。台湾の皆さまも、風評に惑わされることなく、震災前と同様に日本産品を購入し、訪日されることをお願い致します。

最後に、万感の思いを込めて、あらためてもうしあげます。

「ありがとうございます、台湾」。

我、郷土の偉人南方熊楠翁と
孫文先生の運命的な出会い

社団法人亜東親善協会副会長
参議院議員 大江康弘

今年の台湾は熱い。誤解のない
きょうに、気温ではない。

辛亥革命から丁度一〇〇年、
大きな節目を迎え、国父である
孫文という大革命家に想いを成
し、新たな一〇〇年に向かつて、
国を挙げて進んでいこうという
気概が感じられる。

五月八日に執り行われた、八
田與一先生のテーマパークの竣
工式（森喜朗元総理はじめ八田
與一先生の出身地である石川県
の関係者の皆さんや、我々、日
華懇・藤井孝男団長以下二四名

の国会議員も参加したは、三年
前に馬英九總統が当選した際の
公約で、八田翁の業績を忘れて
ならないとの想いで、烏山頭ダ
ムの公園を整備し、しっかりと
後世に伝えていこうとの馬總統
の、強い日台友好の意志と決意
の表れである。

今年一年は、政府や民間主催
での一〇〇年記念の行事が目白
押しである。

そんな中、先日、台湾の皆さ
んと食事をする会があり、そこ
でも孫文先生のこと話題にな
った。

私も出席者の皆さんに「私の
ふるさと和歌山県も孫文先生と
は深い縁があるのですが、皆さ
んおわかりですか？」と尋ねて
みたが皆さんわからず、「それで
は南方熊楠翁はご存知ですか？」
と再び尋ねてみると、今度は何

人かの方が「知っている」

でも「何故、南方熊楠なので
すか？」と訊かれたので「実は
孫文先生がイギリスに滞在（一
八九六年九月～一八九七年七月
まで約九カ月）中、もつともよく
会われ親交を深められた人が南
方熊楠翁なのです」と申し上げ
た。

彼は和歌山県の出身で人生の
大半を私の生まれ古里である田
辺市で過ごされ、植物学や菌類
の研究活動を続けられた話を申
し上げた。

実は私もこの二人の親交は意
外であった。人間の出会いとは
本当に不思議である。

革命運動に明け暮れた人生の
孫文先生と、植物採集や菌類の
研究に没頭した人生を送った
南方熊楠翁が、まさか遙か遠い

異国英国で、その縁の赤い糸を
お互いが引き合うなど、本当に
不思議としかいいようがない。

また、本を読んだり、人から
聞くしか知識のない我々である
が、考え方や行動や価値観が一
八〇度対極にあると推察される
二人が実に英国でよく相まみえ
て親交を深めた等と聞けば、
益々人間の出会い、運命の不思議
さを痛感せずにはいられない。

孫文先生が英国に渡ったのは、
一八九六年の九月末でニューヨ
ークからであったという。その
一年前の一八九五年に広東で清
朝打倒の為の武装蜂起を指揮す
るが失敗、その後、清国政府の
「お尋ね者」となっていた。

そんなことであるから、すで
に英国への渡航も清国政府の知
るところになっており、到着早々、

ロンドンの清国公使館に監禁される。

しかし、孫文に同情した公使館のイギリス使用人の人が、ロンドンに住む孫文先生の香港留学時代からの恩師であった「カントリー牧師」に監禁の事実を知らせたところ、カントリー牧師が孫文の友人であるマンソン博士も巻き込んで、ロンドン警視庁、英国外務省、新聞社等に解放を働きかけた。

結果、世間に監禁事実が知れ渡り、外相のソールズベリ侯爵やサンダーソン外務次官ら英国高官も動き、監禁二日後に無事釈放された。

清国がこのように早く「お尋ね者」であつた孫文を英国の圧力に屈して釈放しなければいけなかつた理由は、その当時の清

国政府の置かれていた厳しい国際環境にあつた。

その約半世紀前のアヘン戦争（一八四〇年～一八四二年 南京条約で一端解決するが一八五六年第二次アヘン戦争が勃発、その後、中国は不平等条約を締結し、長くその支配で苦しむこととなる）において英国に屈し、西欧諸国の利権争奪の草刈り場となつており、また、一八九四年～一八九五年には日本との日清戦争に敗れ、当時、世界最強といわれた英国にはとても逆らつたり、反する余力などなかつたのである。

こんな状況の中、孫文の監禁事件は世界中が知ることとなり、彼の名は一挙に有名になった。又、同時に孫文にとつて不幸中の幸いは、この事件を通して多くの友人や知己を得、清国政府

の圧力に脅えることなく、英国内を白昼堂々と活動できる環境を得た。

英国滞在の約九ヶ月間は彼にとつてのそれまでの、革命に明け暮れた日々の疲れを癒し、精神的な充電期間であつた。そんな中、南方熊楠翁との運命的な出会いが訪れる。

南方熊楠翁は孫文先生より約四年早くロンドンへ来ている。神田共立学校（現・開成高校）の同期生には幸田露伴、大学予備門（後の旧制一高）の同期生には夏目漱石、正岡子規、秋山真之らがいた。

学校での授業には全く興味がなく中途退学、二一歳でアメリカに留学するがその後、渡英、たまさか科学雑誌「ネイチャー」への寄稿文が高く評価されまた、

大英博物館での貴重な人脈を得た（東洋図書部長のR・ダグラス氏、同考古学部長のA・W・フランクス氏、同副部長のC・Hリード氏また、ロンドン大学事務総長で日本学者のF・V・ディキンズ氏等）

結果、博物館勤務で東洋関係の資料整理を手伝っている頃、自らを引き上げてくれた大英博物館東洋図書部長のダグラス氏の部屋で孫文と運命的な出会いをする。以後、「三日にあげず」という位二人は頻繁に会つていたという。

孫文は酒が飲めないそうだが、熊楠が行きつけの今風に言えばパブで延々と話し合つていたというから、とにかく気が合つたのだろう。

熊楠翁は一八六七年四月生ま

れで孫文先生よりも五ヶ月年下
というから年齢も近いというこ
ともあり、しかし片や革命家、

片や植物学を中心とした学者、
酒を飲めない者と豪放で酒豪家
(らしかった)、また国籍も違う
対称的な二人が「三日にあげず」
合うくらい意気投合したのは
何が理由であつたのか。大変気
になるところである。

唯、見かけとは全く想像がで
きないが南方熊楠翁が柳田国男
ら民俗学者らと政治に関わつた
事例が一件ある。それは、明治
政府が行つた「神社合祀」の時
である。

一九〇六年(明治三十九年)に内
務省の勅令で一九〇六年〜一九
一一年の期間に全国の神社が運
動を行つた。約一九万社から一
三万社に減少した。彼等は神社
合祀で消滅する集落祭祀の維持

や環境保護の立場から強く反対
した。

このような熊楠翁の活動を理
解してか、孫文先生は「革命が
成功したら中国に来て故郷の広
州の羅浮山で大植物園を作る手
伝いをして欲しい」と彼に要請
している。

その後、熊楠翁は一九〇〇年
の暮れ、一三年間に及んだ海外
生活にピリオドを打ち、日本に
帰ってくるが、その頃、たまた
ま孫文先生も広東省惠州での武
装蜂起が失敗し、日本(横浜)に
亡命していた。

それを知つた熊楠翁は孫文先
生に連絡したところ、一九〇二
年二月に初めて和歌山へ訪れた。
わずか二日間の滞在であつたが、
恐らく二人は英国滞在中を思い
出し昔話に花を咲かせたに違い

ない。

「ただ人の交わりにも季節あり」
と日記に書いている通り、その
後再び会うことがなかつた二人
であつたが、孫文の死を知つた
日、熊楠翁は一日中、自宅の書
斎に籠りつきりであつたといわ
れている。

不合理を正し得ない事なけれ
主義や官僚主義を憎み、若い頃
からそれぞれの与えられた天命
(使命)を果たそうと自らの運命
と一生かけて戦い続けた二人で
あつた。

お互いに専門とする分野も生
まれも違い、性格もおよそ対照
的な二人がこのようにお互いを
認め合い、肝胆相照らしたのだ
ろうか、不思議でしかたがない。

列強の植民地化が進んでいく

中、先進国の圧迫と収奪から祖
国を解放しようとする革命家孫
文、西欧文明の優越性を認識し、
お互いの国の近代化や文化の発
展を図っていくためには、西欧
諸国が積み重ねてきた科学の発
展を受け入れざるを得ない。

この共通認識のもと、その中
でどう生きていくか、これが二
人をして何日も、何十回も語り
会つた理由であつたのかと推察
する。

孫文と熊楠翁の二人の交友の記
憶は一世紀以上を経た今を生き
ている私達に、多くのヒントや
示唆を与えてくれている。

『孫文・百年先を見た男』
(著者：田所竹彦氏)を参照

日台のさらなる友好関係に期待
参議院議員 松下新平

中華民國の記念すべき建国百周年、並びに社団法人亜東親善協会設立四十周年を皆様とともに迎えられます事を大変嬉しく思います。誠に改めてとうござい
ます。亜東親善協会の玉澤徳一郎会長をはじめ歴代役員の方々と並びに会員の皆様が日頃から、日台友好関係にご尽力頂いておられます事に敬意と感謝を申し上げます。

三月一日に発生した東日本大震災では、発生した当日から、馬英九總統をはじめ台湾各界より温かいお見舞いのメッセージが届くと同時に、人的、物的、総額一七〇億円を超える義捐金を頂きました。この場をお借りいたしまして、改めて厚くお礼申し上げます。

さらに、五月には、王金平院長を筆頭に約三〇〇名の観光訪問団で北海道入りして頂きました。

た。風評被害を受けている観光業界の回復にご尽力頂き、深く感謝いたします。

元来、台湾に親近感を覚える日本人ではありますが、東日本大震災をはさんで更に増したとの調査結果もあり、国民一人ひとりの感謝の表れに他成りません。

「疾風(しつぷう)に勁草(けいそう)を知る」と言う言葉がございます。

激しい風が吹くと、あらゆるものが飛ばされますが、根のしっかり張った草は飛ばされなくて残る。激しい風が吹いて初めて強い草が見分けられるのです。そうです、人間の生き方そのものが見直されてきています。

苦難や厳しい状況におかれてはじめてその人の真価が問われます。

私たちは、将来、復興を成し遂げ、二〇二一年の三月一日を、日本人が忘れかけていたものと思い起こすきっかけになった日

にしなければなりません。

今、何が大切なのか、当たり前の事がどんなに有難いか……

私は、こういう時だからこそ、亜東親善協会の懸け橋としてのご活動がますます重要になると確信します。

自由民主党青年局としても、今から約四〇年前、当時の佐藤榮作総理大臣のもと、海部俊樹青年局長・小渕恵三青年部長と台湾の蔣経国元總統との合意により日台交流事業が始まり、今なお活発に展開されております。私も青年局国際部長として、さらなる日台友好関係の安定と繁栄と関係強化のために取り組んで参る所存です。

先日、台北駐日経済文化代表処主催の特別展「孫文と日本の友人たち―革命を支援した梅屋庄吉たち」を訪問時には、日本人との交流という視点から孫文の業績を振り返りました。改めて日台友好関係のさらなる発展

経済協力を熱望致します。

また、五月に完成いたしました、日本統治下の台湾南部に世界有数の鳥山頭ダムを完成させた八田與一氏をたたえる記念公園建設にも、感謝と敬意を表します。日本では、八田氏の功績は日本人としての誇りであり、その遺徳を若い人に伝えたいと、修学旅行の企画が進んでいるそうです。

八田氏を描いた映画「パッテンライ―」の制作企画担当である緒方英樹様は、同郷宮崎県のご出身です。私も緒方様とともに、この映画を通じて一人でも多くの方に八田氏の功績を知って頂くことに取り組んでおります。是非、皆様方にもご覧頂きたくご紹介申し上げます。

最後に亜東親善協会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「更なる日台友好をめざして」

社団法人亜東親善協会顧問
参議院議員 山本順三

去る三月十一日、我が国では、マグニチュード九という東日本巨大地震が発生し、それに伴う大津波、福島第一原子力発電所における原子炉事故による、未曾有の大災害に見舞われました。

この災害により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますと同時に、被災された多くの皆様方に心からお見舞い申し上げます。国難とも言うべきこの難局にあたり、私たちは国を挙げて、原発事故の収束と被災地域の一日も早い復旧・復興を実現し、日本の再生に向かって突き進んで行くべく最善の努力をしていかなければならないの思いで取り組んで参ります。

今回災害に当たっては、地震

発生直後から、警察、消防、自衛隊の皆様の救援活動をはじめNGO、NPOや多くのボランティアの皆様からのご協力をいただいております。そしてまた、世界各国、地域、国際機関からも多大なご支援をいただいております。心から感謝を申し上げます。そして、その献身的な活動に対し敬意を表します。

台湾からもういち早く緊急救助隊を派遣して救援活動に参加いただき、支援物資をお送りいただくと共に、国を挙げて各界各層の皆様方から多大な義援金を賜るなど心温まる多くののご支援をいただき、感謝申し上げます。また、原発の風評被害が起きている中、王金平立法委員長が中心となり、二百人を超える大観光団に來日いただき、日本の安全をアピールしていただきました。良き隣人の温かい心遣いに改めて感謝申し上げます。

台湾では、今年は、辛亥革命と中華民国建国一〇〇周年の記念の年であります。この百年には日本も大きく関わってまいりました。そして、その関係の象徴ともいうべく、「会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との経済、文化の提携、交流を通じて、友好親善の増進を図る」目的で誕生した亜東親善協会も、一昨年、創立六十周年を迎えることができました。このような活動と、先人たちの弛まぬ努力により日台友好関係は培われて今日を迎えるに至っております。

先輩諸兄に対し敬意を表しますと共に、我々がさらに親密なる友好関係を構築していかなければならないと思いを新たにいたしております。そして、なにより日本と台湾は自由と民主主義、人権の尊重など価値観を共有している隣国であります。相互協力を深めつつ、日台両国が

ますます安定して緊密になることを切望してやみません。

私は、APPU（アジア・太平洋国会議員連合）日本議員団事務局長も務めており、今後もアジア・太平洋地域の安定と繁栄を図るべく努力をして行かなければならないと考えております。しかし、この地域には多くの課題も混在しております。中でも、日台関係が大変重要であり、共に手を携えていけるパートナーであることが、この地域の安定と発展には欠かすことのできないものであると確信いたしております。

この建国一〇〇周年という歴史的に大きな節目の慶事を一緒に祝福いたしまして、新しい日台友好関係を促進して参りたいと存じます。今後もよろしくご指導、ご協力下さいますようお願いいたします。

演題

「爛熟民主主義文明の行方」

講師 京都大学名誉教授

鈴鹿国際大学名誉学長

勝田 吉太郎 先生

今日は塩川先生を初め、そうそうたる政治家を前にして、お話をさせていただきます。恐縮且つ、いい話を出来るかしらと存知おります。先ほども大江先生がおしゃっていただきましたが、私はこの亜東親善協会と大変縁が深いように思われている。会長の玉澤先生とは三十年前に自民党の研修会で箱根に何回参りましたでしょうか。家内と一緒に六・七回、私は最初一人で رفتたんですけども【どうして奥さんを連れてこない】という事で、それじゃ、家内も同伴していきました。大変印象に残りました。その時に玉澤先生には随分ご厄介になりました。



あの当時先生は体格もご立派でしたが、非常にも爽やかなハンスムな青年でした。今は大部威厳がその替わり出てきました。

大江先生とは先程もおしゃっていただきましたように七年前になったでしょう。李登輝先生、前の総統ですね。李登輝さんに招かれて台北で日本の憲法のことをちよつとお話させていただいた。その時に大江先生に初めてご面識を得て実に前向きな方で、先生とお話をしていると元気がもらえるようなその類の先生ですね。今日までとても有難いことでご縁になっております。

このようなことでそれこそこの協会の前身からして、ずっといろいろとお骨を折っていただいたのは岸信介先生ですね。岸先生とはまた面白いご縁があつて、とにかくある本を書きまして面白いと言われて、ちやうど岸先生が八十歳になられてから自民党の方から「一緒に二人で日本憲法の話を自民党支部を中心に、ずっと各県を回ってくれないかと」。やがて、「いい

ですよ」と言いましたら、岸先生からお電話が掛かってきまして「是非お願いします。私は前座を十分く十二分くらいで切り上げます。その後は、あなたが一時間をやってくれと、それ以上やるとダレルから。まあ、二人で一時間十分く十五分くらいで収めたいだと、できますか」「それでいきましょう」というわけで、岸先生とご一緒に二人でいろんな所で憲法改正の必要をかなり理屈っぽくお話をさせていただいた。

そんなことで岸先生と十分仲良くさせていただいて、食事も何回もいたしました。が、もう先ほど新幹線の中で大江先生に申し上げたけれど、あんなに歳をとつて、つまり私くらいの年配から（八〇歳から八十五・六歳くらいまでの間）あんなに面白い・品のいい猿談も上手にされる先生は初めてですね。私もこ

の歳になつてあんなに良い・面白い・品のいい猥談したいと思っています。これ以上詳しいことはできませんが、そんなことをしていると本題に入るのが遅くなりますから、早速まいりましょう。

さて、この前の大震災。これはいろんな意味でいろんな教訓を得たと思います。一つは全世界から台湾が一番目真面目な対応を最初にやってくれた事です。台湾を始め、いろんな国、全世界から援助の手が差し伸べられました。有り難いことです。と同時に各国・全世界から日本人は秩序が正しい、我慢強い、特にアメリカ南部のニューオリンズを中心にして、ハリケーンが荒れ繰り返しました。あの時の状況と比べて、略奪をしない、便乗値上げも無かった。たいしたものだとお褒めのことをいただいて、私も日本にはちよつと恥ずかしい思いをしております。

しかし、これはこの事件だけじゃないです。もうかれこれ九〇年前の関東大震災、あの時も実は同じようなことをフランスの日本大使をしていた詩人。彼が東京から川崎・横浜・湘南の方へ逃げていた當時を思い出して、日本ではあーいうことになつてときにも、いつさい虐脱というものはなかった。たいしたものだと。あの詩人は非常に日本びいきになった。

日本人を自分の目で初めてじっくり眺めたヨーロッパの知識人。これはスペインのフランシスコザビエルですね。ザビエル自身が実は沢山手紙を書いてますけれども、それと同じことを日本人論として展開しているのです。そういうことを考えると、これお互いに、個人でもそうです、民族でもそうです。あの極論状況の中で人間の・人物の地というものが現れるでし

よう。そういうことを考えますと、最初に日本人を眺めたザビエルからして同じことを言ってくれているというのは、やはり一つ日本人論、そういう題間につきされます。

私もいい年になりましたけれど、もうないかと思えます。もし万が一ご縁がありましたらその次には日本人論・日本人のアイデンティティとは何か、そういった問題をお話をさせていたきたいと思えます。

同時にこの震災で、私を感じましたのは神。神ということばいやだったらば、大いなる存在と言換えてもいいです。あのおおなる存在からの非常に手厳しい警告だったと思われてなりません。一言で言えば、戦後の日本はアメリカにひどくやられたこともあつてまずもって経済復興だ。一所懸命に働きました。

働きましたと言っても経済復興。やがて、復興がなりましてはもつともつとより快適な・より豊かな生活を。より早くに。

今日も京都から参りましたけれど、たつた二時間二〇分です。もつともつと早く・快適な生活を。そういう類の物欲。私はもつと前から欲望民主主義と名付けて呼んでいました。欲望民主主義に対するある大いなる存在が手厳しい警告だったと。これ以来、私も真剣に節電と省エネというものと掛かりにして生活スタイルの改善。改善どころかむしろもう変革ですね。それをやらなはいけない、そんな風な思いであります。

ことばを変えれば、戦後の欲望民主主義、それはもつともつとより快適な生活を・もつともつとより豊かな生活を・もつともつと快速で走るような、そういう時間を短縮するようなそう

いう文明の利器だと。こういう欲望民主主義、あるいは物欲民主主義と言ってもいいですが、そういうものに対する手厳しい警告だろうと思われるてなりません。

二五〇〇年前のギリシャですが、今日の日本または今日の世界と比べて、もちろんのこと、科学技術も発達しておりません。

より豊か・より快適と言っても二五〇〇年前ですから限界があります。しかし物欲だけはいくら発達した、私の言葉で言うとな爛熟民主主義文明のギリシャのアテネの民主主義。これはどういう具合にして社会を滅ぼして行き、国を滅ぼして行ったかについて、ごく簡単にお話をしてみようと思います。

日本ではギリシャ哲学というのは結構研究されております。私が昔居りました京都大学の文

学部、これは戦前、哲学がとも有名ですが、戦後はうって変わって田中美智太郎先生を中心にしてギリシャ哲学、これはもう世界的な水準に達しました。哲学は非常に研究されていますけれど意外にギリシャの政治史・歴史が研究されていない。それで一番の根本をお話をしてみようと思います。

まず、最初に、プラトンの民主主義批判について。プラトンの生きた時代というのは私のいう物欲民主主義あるいは爛熟民主主義と言ってもいいです。そういう欲望民主主義が国を滅ぼしつつある、社会を乱れつつある、そういう時代にプラトンは生きておった。もともと民主主義というのは平等主義が深く内在しています。奉納前における権利の平等、私共にとってこれは当然のことです。

二番目に、さらに進みますと、政治的民主主義。これも当然です。かつて日本は大正の終わりでまでは直接国税一五円、最初は一〇円だったです。一五円を払ったものだけが選挙権を持っておった。むろん、男性だけです。いまはその制限ごさいません。二〇歳になれば男女共に政治的平等。

三番目に、政治的平等の次には、単に政治的平等だけでは駄目だと、経済に平等、特に貧富の差、これを解消する必要があります。これはいわゆる社会民主主義というものです。こういう主張が出てきます。私は、これは当然だと思っております。さらに民主主義が発達します。

四番目に、ちょうどプラトンが『ポリテイア』という、国家と普通訳していますが、対話篇では言っていますが、縦秩序が

崩壊してしまうとそういう人間関係の平等主義というものがずっと進んでいきます。

五番目にさらに進んでいきますと、私は能力の民主主義という主張が出てくると言っているだろう。プラトンの国家はまるで日本の状況を描えているのではないかと。ちょうどそれは四番目に言いました縦秩序が崩壊して人間関係が平等化してしまう。そういう状況をいろいろ変えているんですね。

例えば、プラトン自身が書いているもの読みますと。まず、第一に、親は子を恐れるようになる。そして、子供に敬語をする。そういう子供は親と一緒になろうとなっている。

二番目に学校では先生が生徒を恐れてそして生徒に敬語をする。こういう先生を生徒は軽蔑をする。

三番目に、かつて日本の日教組を思わせませう。年長者は年少者にいやな奴だ、横暴な奴だと言われないように勤めて、年少者に冗談を言い、年少者に気に入られるようにいろいろ振舞う。プラトンは本で書いてある。私はそれを読んだときに日本の状況をルポルタージュじゃないですけども、それをよく似ているのです。

さらに平等主義が発達しますとまさしく爛熟民主主義です。そういう時代になりますと、能力平等主義です。

実は、それはすでに日本でも二〇年前になります。覚えていらっしゃる先生方もいらっしゃるかもしれませんが、東京の立川で音楽の先生が成績評価の平準化・平等化というものを交渉して、これこそ民主主義。

音楽の先生が「オールC」を付けた。Cというのは多分七〇点くらいでしょうか。音楽はもって生まれて才能あるかないかの現われその分野、芸術の分野は一般ですが。だって、あの男は一所懸命歌を勉強しているらしいけれど、やはり音痴は音痴だよ。ところが、あの男はこれほっちも勉強してないのに、それは素晴らしい声で、いい歌を聞かせる。これはやはり天性のものでしょうか。その音楽の先生に限ってオールCということに全部Cをつけた。

これこそ民主主義の本質だ。日教組大喜びして、その通りだ。そして、大阪の高槻第六中学校に飛び火して、そこはなんと校長先生が先頭に立って、音楽だけじゃだめだ、全ての教科についてオールCでやりましよう。そういう事件がありました。

まさしくこれは能力の平等主義です。

いまはこのような乱暴な、一本やりの日教組はなくなりまして、しかしその日教組に育てられた親達がいまは四十・五〇になっているのではないのでしょうか。

ドフトエフスキーのことを書きましたので、それについてお話をしてみます。ドフトエフスキーは【悪霊】という長い小説。その小説のなかで、シガリヨフという一風変わった人物を登場させて、未来に登場する社会主義、彼の言葉でいうと無神論の社会主義、要するに社会主義です。そのありさまをのべさせている。シガリヨフスチーナというのです。

ひとことではこうゆうことです。あくまでも能力の平等主義をはからないといけないです。

その社会において、ごく一握りの人を別にとして、後は全部平等である。奴隷として平等である。そして、天才は悪である。シガリヨフという人物の口を借りて言うと、ケケロ、ローマ時代の有名な政治家であり・大雄弁家は舌を抜かれ、コペロニクスは目を抉られて、シエークスピアは石を投げて打ち殺された。天才は無用である。そういう風に言っているようです。

これはまさしく力の平等主義です。

確かにこの【悪霊】という小説は未来の登場すべき社会主義を戯画化している、そういう面があります。ありますけれども天才で、あの小説書かれて約一五〇年間に、スターリン体制が出来ました。どうですか。スターリン体制ははっきり言ってシガリヨフ体制ではありません

か？

ロシアは何と言っても音楽の点では天才が出ます。シユスタコ・ヴィツチの伝記・自伝あるいは回想録もあります。そういったものをお読みになれば、いかに彼がスターリン恐れ、この音楽を発表したら強制収容場に入れられるのではないか。友人からもそういうことを忠告されて、もう本当に恐る恐る、バイオリン協奏曲のことはスターリンが死んでからようやく発表が出来た。

これは二〇世紀最大のバイオリン協奏曲だと評価が決まったくらいの作品です。それくらい天才は恐れてあったというわけですね。スターリン体制を言ってみれば予測させるような、確かにシガリョフ主義、未来の社会主義、能力平等主義をぎりぎり、とことん追求していくそういう社会です。

先ほど、プラトンの場合には能力平等主義までにはいかないけれども、その前段階の縦秩序の崩壊、人間関係の平等化、それをいろんな面で彼は描きだした。そういう風な爛熟民主主義、民主主義崩壊の一手手前のアテネの民主主義、それがどういう風な具合で滅んでいたのかこれから実際起こったものお話をしようと思います。

その当時は都市国家で、アテネがギリシャ民主主義の盟主でした。アテネは海運力で覇を占めていた。デロス同盟についていすけれども、ちよつとアメリカがいま世界を統括するような状況と思つてもらつてもいいです。各国をデロス同盟の参加に結集させて、自分が盟主として振舞つていた。そうこうしている他方でスパルタが陸運国としては称えていました。スパルタとはいろんなことで戦争状態に入

つてしまふ。

ペロポネソス戦争と申して、例のツキシデースは歴史学の母として知られている。ヘロドトスが歴史学の父だとすれば、ツキシデースは歴史学の母です。そして、ツキシデースはこの『ペロポネソス戦争』の歴史を変えたという歴史家でした。

ペロポネソス戦争は実に二〇数年間続いた。スパルタとの戦争が。二〇数年間も続いた長い戦争、その最中にもこの欲望民主主義・物欲民主主義その類の民衆の有様が進歩し続いているのでした。

その中でも有名なのは、『テオリコン』。これを直訳すると劇場費というものです。劇場の費用です。ギリシャ人は観劇が大好きでした。もつともつといろんなところで劇場を建てばと。実際アデネに行くと立派なパル

テノンに行く途中に半分壊れかかっている野外劇場がある。これは各地にいろいろある。あいう類の劇場をもつと建てると、劇場で演技する役者のギャラも全部国家持ちだ。最後の場合には、遠いところから劇を見に来るそういう市民たちの旅費・滞在費まで国家持ちさせると。

それがギリシャ民主主義。しかも先ほども言ったようにペロポネソス戦争という国の命運を決するような二〇数年間も続いた大戦争である。

そこでもテオリコンの主張、大海運国ではありますが、軍艦を造る費用を差つびいて劇場を建てようという主張が罷り通つてしまった。なにしろ、その当時は直接民主性です。貴族制ではありません。当然です。直接民主性で一定な場所に集まつていろいろ議論を叩かわせ

るのは一般市民でした。一般市民っていいまでも男性だけでした。そういうような状況で軍艦までケチって劇場を立てるというのです、これは戦争に負けるのは当然です。

実際、ここに書いたようにBC四〇四年、とうとうアテネはスパルタに降伏いたします。

降伏いたしますと、まあ、戦争に負けた国はどこでもそうですが、政治不安・クーデターなどがいろいろ起こったりします。

最初はプラトンの叱責がありましたような、貴族制の政権ができました。それも又再び民主化の政権に打ち倒されるという状況になった。そういう政情不安の中で、ソプラテスが処刑された。それは民主主義の政権もとでソプラテスが貴族制の政権に参権したという理由でした。結局のところ処刑されて、毒を

のんで死にました。

プラトンはソプラテスの弟子でし、彼自身は民主主義を嫌っておりました。欲望民主主義に墮落したことを非常に強く批判した。そして貴族主義の一般に加算したというところもあつて、ますます彼はそうすることになつていく。やがって、プラトンも歳で死んでいきます。

さて、戦争に負けたアテネはどうなつていたかと言いますと、もう戦争は懲り懲りだ、もう戦争はしません。これからは平和主義でやつていきます。

それはいいです、デロス同盟も全部解消します。アテネ一國で平和主義をやつて行きます。それはいいですけども、平和国家アテネは経済が復興してまいります。だんだん豊かな社会になります。

そうしますと、またぞろ出て

きたのはこの欲望民主主義・欲望物欲民主主義ですね。平和国家ですから、軍備は無いに均しく。とにかく、もつともつと劇場を造ろう、演技する役者のキヤラも全部国家持ち。再びテオリコンが肥大してまいります。

そういう状況の中で、ついで知識人たちはこういう類の民主主義はもう嫌だと背を向けていきます。代表的な人はデモクリトスがいる。政治家であつた。彼はこんなことをしていたら、国は滅びいつてしまうぞ、北方の方を見てみる、マケデネのほうです。

いまして、飛行機で四五分間くらいのところですね。マケデネはフィリップという国王のもとで軍備拡大、なにを仕出かす不気味な状況になっておるともう、いい加減にテオリコンしてないで、こちらのほうも武器をもてないといけないと盛んに

訴えたわけでした。

そうします、アテネは議会はテオリコンの費用の一部を割いて、防衛費を増大させようと主張するものは死刑に処すという決議を民会で通してしまつた。

さすが、デモクリトスも口を閉ざさざるをえない。そういう類のアテネの民主主義の状況を見て居つたアリストテレス。彼はプラトンの弟子になりますが、アリストテレスはもう嫌だと。

彼はどのようにしたかというと、この民主主義は駄目だと、滅亡するに違いない、何をして駄目、こともあろうに、マケドニアの皇太子、今でいうと家庭教師に招かれてマケドニアの方に身を寄せていた。これはアリストテレスのありの姿です。アリストテレスはマケドニアの出身ではありません。

でも、ひよつとしたら、敵に

なるかもしれないその北方のマケドニアの皇太子の家庭教師になると、それくらい知識人がみんな背を向けてしまうというのがアデネ爛熟民主主義の姿でありました。

そういうことを言っているうちに、デモクリトスの警告が当たりました。ギリシャで言うところのフィリッポス王の下で強大化したマケドニアがある日アデネを攻めて、無条件降伏を要求します。さすがにアテネの市民たちはかつてのアテネ、なにしろずっと一世紀以上前には、大國ペルシャの海軍をこっぱみじんにやつけた。

そういう歴史がありました。サラミスの海戦とイギリスのネルソンのトラファルガーの海戦と日本の東郷さんの対馬沖の海戦が世界最大三海戦と言われているのでした。ネルソンは海戦で死んでしまうのですが、イギリ

スの海軍はスペインに相当やられていたのも事実、最終には勝ちました。東郷さんの対馬沖の海戦は一〇〇%勝ったのが奇跡ですね。高校の教科書ではサラミズとネルソンのトラファルガーは載っていたけれど、日本の対馬沖の海戦は世界三大海戦でしたが、載っていませんでした。

そういうかつて自分たちの先祖がペルシャ大軍を敵に回して、海軍を徹底的にやつけた。そしてペルシャに打ち勝ったという過去の栄光を思い出し、負けると知りつつ、マケドニアのフィリッポスとカイロネギアという野原・戦場で決戦をやりました。

アデネの市民たちは、いままでは平和国家・平和主義の一点、テオリコンの一部を防衛費に回すと死刑だと決定を、日本という国会という所で通すというのが、ここまで来て負けてしま

った。これがB.C.三三八の状況でした。

フィリッポスはちょうどアメリカのリンカーンと同じ様に観劇している最中に、テロでやられて死んでしまった。死んだ後、皇太子のアレキサンドロスが国王になりました。例のアリストテレスが家庭教師をしていた皇太子でした。

アレックスサントロースは持つて生まれた軍事的な天才でした。アレックスサントロースの元で、平和主義で言っていたアデネの青年たちも含めて全員がギリシャの都市国家に借り出されて、そして東の方へ、現在の地図だとインドス川の領域までパキスタンも全部征服下、落ちていました。

アレックスサントロースはインドス川を越えてインドまで攻めるのだと言っていたが、部下の將軍たちは(国王、アレック

スサントロースよ、もうここでやめてくれ)と全部口を出していったので、インド征服を諦めて、インドス川で引き返した。軍事的な天才のアレックスサントロースの元で平和に暮らしていたアデネの市民たちは兵士として参加させられたということでした。

最後に、テオリコンをもっともつともつと、その物欲民主主義あるいは欲望民主主義と名づけていましたが、一体どうやって費用を賄ったのか、そういうことです。

一言で言うと、その当時、二五〇〇年前のギリシャはもちろん科学技術も進んでいませんし、経済の面もクレジットという觀念がないです。つまり、債権・国債・公債を発行するという知恵はありませんでした。やり方は極めて単純で明快でした。いろんなやりかたでテオリコ

ンの費用を賄おうとした。例えば、金持ち連中にいろんな名目で税金を課す、なかには貧しい一般市民たちの父たちが死んでの葬式費用までも出した。これはたまったものではありません。

これはプラトンの批判中でも書いてありました。金持ちに隠匿させないために、いろんな所にスパイを政府は放ちます。プラトンはそういうスパイたちを警戒するために私的な警官たちを雇うような忠告を為していたところがありました。ありとあらゆる名目で金持ちたちから税金を塗り取りますのが最初のやり方。

二番目に一番対応したのは市民権を奴隷に売る。戦争で負けた国の市民たちは全部奴隷にある。奴隷と一口いうと非常に技術の高い奴隷もいますし、特に医者ですね。医者は奴隷とはい

え、十分沢山お金を儲けていた。そういう奴隷の医者たちに、アデネの市民権を高く売りつけるのです。奴隷は財産権を所有するわけにはいかない、いつ没収されるのが分からないので、市民権を持つことはとてもありがたいことでしょうね。そういうわけで、奴隷に市民権を売ることで沢山の費用を勝ち取る。それはもうよくやったやり口の一つです。

最後に到達したのは、インフレの元になることでした。アデネの港にオリブ油・小麦をはじめ、様々な物品を積んだ貨物船が到着する直前に、アデネの政府がその物品に三割増し、中には三、五割増しを命令する。ただし、貿易商にその増した分を直接アテネの中央政府に差し出すように命令を下した。そのような単純なやり方。単純なだけ、ものの事の本質が非常にクリ

アで、このようなことをすることによって、結果としてはインフレを招いてしまう。

ギリシャの爛熟民主主義・あるいは欲望民主主義、それがついに社会を混乱させ、国を滅ぼ



していたその前夜というのがとめどないインフレーションが進行していた。これは争いようなない事実でした。

日本ではギリシャの哲学が盛んで京都には立派な研究所がありました。ギリシャの歴史が意外に知られていないのです。

しかし、これが実に面白いです。

今、日本は約一千兆ぐらいの赤字国債を持っているのではないかと黙っていても、年間二〇数兆円・三〇数兆円近く利子が毎年毎年増えていくでしょうね。

これから、東北大震災・東日本大震災そのための赤字国債を発行しなければならない事態となりました。アメリカの格付け会社は早々と日本の国債の評価をネガティブということで段階で下げてしまった。

このまま行くと、日本の財政はめっちゃめっちゃになるぞ、よっぽど、日本の国民が増税に応じなければいけないと。

政治家の先生たちはしつていると思いますが、まだ、いま日本は一三〇〇兆円ぐらいの国内預金があるらしいです。

それでなんとか赤字国債を賄いでいるようですが、でも、国内では賄えないきれないので国外から借りようと。その時はもちろんべらぼうな利息を払わなといけないです。そのことを考えますと、まさにインフレーションですね。

ギリシャ、物欲民主主義あるいは欲望民主主義のなれの果てというのは、どうも悪くすると、もしかしたら日本の未来のいつか、いつの時点かはわからないけれど、そのことを考えつつ、このギリシャの爛熟民主主義の

文明のなれの果・行方を真剣に考える必要があるだろうなと思えてならない次第です。

貴重な時間を頂戴して有難う御座いました。冒頭お話しした不思議なご縁で、大江先生とお会いし、実に良い先生で、元気が貰えた。どうぞこの会を盛り上げて戴いて、立派にして下さい。

社団法人亜東親善協会

第四〇回通常総会・講演会

開催日時

平成三三年五月一二日 木曜日

一六・五〇 ～ 一七・五〇

開催会場

ホテルルポール麹町

二階ルビールーム

【文責・事務局】



台湾に関する意識調査(2011年6月1日)

台北駐日経済文化代表処は「ニールセン・カンパニー・ジャパン」に委託して、2011年5月18日～同23日に東日本大震災の被災地区を除く日本全国の20歳以上の男女を対象に、電話およびオンライン調査によって台湾に関する意識調査を行った。

調査結果によると、「あなたは台湾を身近に感じますか」という問いに関しては「どちらかといえば身近に感じる(47.6%)」が最も多く、「とても身近に感じる(19.3%)」と合わせると66.9%となり、過半数を上回る人が台湾に親近感を感じていた。

「あなたは現在の日本と台湾の関係は良いと思いますか」という問いについては「どちらかといえば良い(72.5%)」が最も多く、「非常に良い(18.7%)」を合わせると91.2%の人が、台日関係が良好であるとの認識を持っていた。

「あなたは台湾を信頼していますか」という問いに関しては、「多少は信頼している(64.0%)」が最も多く、「非常に信頼している(20.2%)」と合わせると、84.2%の人が台湾に信頼を寄せていた。

当代表処が2009年に同じ問いで実施した意識調査と比較すると、以下の結果が明らかになった。

- (一) 66.9%の人が「台湾を身近に感じている」のは、2009年の56.1%と比較して10.8ポイント増加した。
- (二) 91.2%の人が「台日関係が良好である」と考えているのは、2009年の76.0%と比較して15.2ポイント増加した。
- (三) 84.2%の人が「台湾を信頼している」のは、2009年の64.7%と比較して19.5ポイント増加した。
- (四) 80.8%の人が台湾へ1度も行ったことがないが、78.3%の人が今後台湾へ行ってみたいと考えているのは、2009年の61.2%と比較して17.1ポイント増加した。

台北駐日経済文化代表処の馮寄台・駐日代表は、今回の意識調査の結果について以下のようにコメントした。

「馬英九総統は就任後に兩岸関係の改善に力を入れ、それによって台湾の国際参加が拡大される好循環を形成してきた。この基本方針が、台日関係を切り開くうえでも極めて大きくプラスに作用した。過去2年間で、『台日ワーキングホリデー』協定の締結、駐日代表処の札幌分処開設、東京羽田空港と台北松山空港を結ぶ航空路線就航が実現したほか、台湾のパスポートを所持している者が今後外国人在留カードの国籍欄に『台湾』と表記できるようになる法律が日本の国会で成立し、最近ではわが国の故宮博物院の文物を日本で展示するための『海外美術品等公開促進法』も同じく可決するなど、いずれも台日関係にとって大きな進展があった。また、今年5月8日には台南の烏山頭ダムに『八田與一記念公園』が開園した際に、馬総統が「友日」の姿勢を強調したことによって、台日関係の発展のために、よりよい環境が整った。今回の意識調査の結果については、日本人々が台日関係が良好で緊密な現状をより一層実感していることの表れであり、台湾への親近感と信頼度が増していることは、たいへん嬉しく思う。」

「ニールセン・カンパニー」は国際的に知名度のある調査会社であり、世界各地に現地法人があり、世論調査の正確さに各界から定評がある。

【台北駐日経済文化代表処 2011年6月1日】

社団法人亜東親善協会2011年度訪台団

中華民國建國百周年・双十國慶節奉祝訪台団 2011.10.09-10.11

	日付	都市名	時間	交通機関	適 用	食事
一 日 目	10月 09日 (日)	東京 台北	5:30		羽田空港・新国際ターミナル3階出発ロビー集合	
			7:10	航空機	羽田国際空港発 中華航空(CI-223)で台北へ	機
			10:00		松山国際機場着	
			11:30	専用車	松山国際機場発	
二 日 目	10月 10日 (月)	台北			台北市内視察(調整中)	○
			18:30		昼食(九戸茶語)	○
					夕食未定	○
					【台北國賓大飯店 泊】	
三 日 目	10月 11日 (火)	台北	8:00	専用車	ホテルにて朝食	○
				専用車	ホテル発 中華民國建國100周年双十國慶節記念式典参加	
				専用車	昼食(鼎泰豊)	○
				専用車 専用車	台北市内視察(調整中) 外交部主催記念式典(台北賓館) 【台北國賓大飯店 泊】	○
三 日 目	10月 11日 (火)	台北	9:00	専用車	ホテルにて朝食	○
				専用車	ホテル発 保安宮・孔子廟・国父記念館等	
					昼食:(梅子)	○
					途中土産物店・免税店へ立寄り	
三 日 目	10月 11日 (火)	台北 東京	16:15		松山国際機場着	
			18:15	航空機	松山国際機場発 中華航空(CI-222)で羽田へ	機
			21:55		羽田国際空港着	

宿泊先: 台北國賓大飯店(The Ambassador Hotel Taipei) 886-2-2551-1111
台北市中山北路二段63號

最少催行員数 10名。 参加申込締切日 平成23年8月10日 水曜日
参加費 98,700円(二人一部屋利用)。(一人一部屋利用20,000円料金追加となります)

- * 旅行代金に含まれるもの。
往復航空運賃(エコノミークラス)。ビジネスクラス希望の方は問い合わせください。
(台北松山空港出入国税・羽田空港施設使用料・燃油サーチャージ含む)
交通費: 日程記載の専用車(バス)
視察費: 日程記載の観光入場料。現地ガイド料。添乗員は手配してありません。
宿泊費: 台北國賓大飯店 2泊
食事代: 朝食 2回。昼食 3回。夕食 2回。機内食 2回。
税金・サービス料・チップ: 団体行動中の一切のもの。
土産代金: 協会にて用意します。
- * 旅行代金に含まれないもの。
個人的費用: 洗濯代。電報・電話料金等個人的な費用。
超過手荷物: 航空会社より定められた規定以外超過手荷物料。
空港までの交通費: ご自宅から羽田空間の交通費。
旅行傷害保険料
- * 中華民國建國100周年双十國慶節記念式典参加(ネクタイ着用)
- * 外交部主催記念式典(ネクタイ着用)

が ん ば れ 東 北

台北駐日經濟文化代表處 代表 馮 寄台	財団法人交流協會 理事長 畠中 篤	財団法人台灣協會 會長 園部 逸夫 理事長 齋藤 毅	自由民主黨國會対策副委員長 衆議院議員 井上 信治 東京都千代田区永田町二・二・一 衆議院第一議員會館三二八号室 電話〇三・二五〇八・七三二八
參議院議員 社団法人垂東親善協會副會長 大江 康弘 東京都千代田区永田町二・二・一 參議院議員會館五〇九号室 電話〇三・六五五〇・〇五〇九	衆議院議員 金子 恭之 やすし 東京都千代田区永田町二・二・一 衆議院第一議員會館四一〇号室 電話〇三・二五〇八・七四一〇	國民新黨幹事長 衆議院議員 下地 幹郎 東京都千代田区永田町二・二・一 衆議院第一議員會館九〇四号室 電話〇三・二五〇八・七三八〇	災害対策特別委員會委員長 參議院議員 松下 新平 東京都千代田区永田町二・二・一 參議院議員會館八二四号室 電話〇三・六五五〇・〇八二四
參議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町二・二・一 參議院議員會館一〇一九号室 電話〇三・六五五〇・一〇一九	前內閣府大臣政務官・元環境大臣政務官 前衆議院議員 並木 正芳 埼玉県所沢市北有楽町三・二・一 電話〇四・二九四八・八〇五〇 FAX〇四・二九四八・八五二二	社団法人アフリカ開發協會 會長 矢野 哲朗 東京都千代田区船橋井町四・一 新船橋井町ビル二階 電話〇三・二五二二・八九二二 FAX〇三・二五二二・八九二二	台北駐日經濟文化代表處 横浜分處 處長 李 明宗 横浜市中区日本大通り六〇 朝日ビル一階 電話〇四五・六四二・七七三七

が ん ば れ 東 北

台北駐大阪經濟文化辦事處 處 長 黃 諸侯 大阪市西區十條堀一、四・八 日秀ビル四階 電話〇六（六四四三）八四八一	台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處 處 長 曾 念祖 福岡市中央區後援一、二・四二 電話〇九二（七三四）二八二〇	台北駐日經濟文化代表處 那霸分處 處 長 粘 信士 那霸市久茂地三、一五・九 アルテビル那覇六階 電話〇九八（八六二）七〇〇八	台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處 長 徐 瑞湖 札幌市中央區北四條西四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一（二三三）二九三〇
中華航空 日本支社長 鐘 明志 東京都千代田区内幸町一、二・一 日土地内幸町ビル八階 電話〇二三（三七八）八八八〇	台灣觀光協會東京事務所 所 長 黃 怡平 東京都港區西新橋一、五・八 川手ビル二階 電話〇三（三五〇）三五九一	ヤマザキ・ナビスコ株式会社 代表取締役社長 飯島 茂彰 東京都新宿區西新宿一、二六・二 新宿野村ビル四〇階 電話〇二三（三四四）六二二一	学校法人東京國際学園 東京外語專門学校 東京國際福祉專門学校 理 事 長 武田 哲一 東京都新宿區西新宿七、三・八 電話〇三（三六七）一一〇一
アジア問題懇話会 大陸問題研究協会 会 長 高野 邦彦 東京都港區三田五十八・十一 電話〇三（三四四四）五七四五	株式会社ヒューマックス 代表取締役 林 瑞祥 東京都新宿區富久町十三、十九 電話〇三（三三五一）一一三二	株式会社ホテル横須賀 代表取締役 長尾 和典 横須賀市米が浜通り二、七 電話〇四六（八五）一一二一	有限会社沖山興業 代表取締役 沖山 建夫 東京都八丈島八町三根一八・一五 電話〇四九六（二）〇一二一

が ん ば れ 東 北

東真商事株式会社 代表取締役 江川 明裕 東京都港区新橋五・一四・一六 電話〇三(五四七)八六六六	株式会社自由新聞社 社長 黄 清林 東京都港区三田五・一八・一二 電話〇三(三四四)一五二六	日華仏教文化交流協会 東京都台東区寿一・十九・一 電話〇三(三八四)二七二二	社団法人亜東親善協会 会長 玉澤徳一郎
社団法人亜東親善協会 副会長 池田 偵一郎 千葉県佐倉市宮前二・十一・五 電話〇四三(四八三)二三三二	社団法人亜東親善協会 副会長 張 建國	社団法人亜東親善協会 副会長 張 碧華	社団法人亜東親善協会 専務理事 崎谷 秀彦
社団法人亜東親善協会 理事 東 達夫 東京都渋谷区神山四・一十	社団法人亜東親善協会 理事 呉 淑娥	(株)マリノロジスティックス 代表取締役社長 小松 省二 東京都港区赤坂二・八・十四 丸玉第三ビル七階 電話〇三(六四二)五〇八〇 FAX〇三(五五六)三三八四	あさみ野ローンテニスクラブ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あさみ野二・一九・一 電話〇四五(九〇二)九〇二二

社団法人亜東親善協会顧問

(五十音順・敬称略)

若林 正俊	山本 順三	山内 俊夫	村田 吉隆	松本 洋平	船田 元	林 幹雄	西村 真悟	中井 洽	田名部 匡省	高市 早苗	山東 昭子	坂本 剛二	岸 信夫	金子 恭之	奥野 信亮	遠藤 利明	魚住 裕一郎	石破 茂	麻生 太郎	安倍 晋三
鷺尾 英一郎	吉川 貴盛	山崎 正昭	森 喜朗	水野 賢一	古屋 圭司	平沢 勝栄	萩生 田光一	長島 昭久	谷川 秀善	高木 美智代	島尻 安伊子	笹川 堯	北村 茂男	亀井 久興	奥村 展三	大江 康弘	臼井 日出男	泉 信也	新井 悦二	愛知 和男
渡辺 博道	吉田 六左門	山根 隆治	矢野 哲朗	宮路 和明	前原 誠司	平田 健二	鳩山 邦夫	長勢 甚遠	谷川 弥一	高鳥 修一	下地 幹郎	佐藤 昭郎	小池 百合子	亀岡 偉民	嘉数 知賢	大野 松茂	内山 晃	岩城 光英	井上 信治	赤池 誠章
渡部 篤	吉村 剛太郎	山本 明彦	谷津 義男	村上 誠一郎	松下 新平	平沼 赳夫	浜 四津敏子	中村 喜四郎	鶴保 庸介	棚橋 泰文	世耕 弘成	佐藤 剛男	小島 敏男	神取 忍	金子 善次郎	大野 功統	江崎 洋一郎	岩屋 毅	伊藤 公介	秋元 司

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

馮 林 楊 羅	寄 錦 作 王	台 清 洲 明珠	中田 小田 李 謝	宏 村四郎 海天 文	畠中 黄 李 橘	篤 林 昇 康太郎	齋藤 林 鄭	籾 瑞 尊	毅 祥 仁	劉 長 李	東 尾 純	光 孝 京
---------	---------	----------	-----------	------------	----------	-----------	--------	-------	-------	-------	-------	-------

社団法人亜東親善協会役員名簿

[会 長]	玉澤徳一郎				
[副 会 長]	池田偵一郎	張 建 國	張 碧 華	大江 康弘	
[専務理事]	崎谷 秀彦				
[事務局長]	南部 晴彦				
[総務担当]	仲谷 俊郎	[組織担当]	益山 茂	[財務担当]	赤松 則宏
[事業担当]	小松 省二	[国会担当]	橋本 靖男		
[理 事]	千葉 健司	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド	松永理恵子
	多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴	
[監 事]	莊司 隆一	藤山 雅康			
[支 部 長]					

[青森県]大見光男 [岩手県]高橋義麿 [茨城県]石川多門 [広島県]月村俊雄

【お知らせ】

- 交流協会の新会長に大橋光夫・昭和電工相談役が就任。六月二一日付。十八年に亘って会長を務めら、日台交流に多大な貢献をされたセイコーホールディングス(株)名誉会長・服部禮次郎前会長は、顧問に就任された。
- 「孫文と日本の友人たち、革命を支援した梅屋庄吉たち」展示会
台北駐日経済文化代表處公邸「芸文サロン」で六月十六日、開幕式が開催された。海部俊樹元首相、平沼赳夫日華懇会長、梅屋庄吉氏の曾孫小坂文乃女史、頭山満氏の孫・頭山興助氏等の挨拶があり、茶会が開始された。当協会副会長、理事、会員も多数参加され、盛会でありました。
- 本年は中華民国建国百周年です。双十國慶節に参加する為に、奉祝訪台団を企画(本文揭示)致しました。十月九日(十一日(二泊三日))中華航空(羽田発着)利用。宿泊は國賓大飯店。募集人員十名。催行員数・十名。募集締め切りは八月十日(水曜日)。事務局の随行は、検討中です。
- 季刊「亜東」秋季号は、中華民国建国百周年記念号・社団法人亜東親善協会設立四十周年記念号とし、会員各位の台湾・協会に関する歴史、体験談、旅行記、写真、ご意見等、ご寄稿をお待ち申し上げております。締切は、メールにて九月十日(土)事務局必着にてお願い申し上げます。
- 十一月に訪台団をとの問合せが有りました、十名以上の参加希望者があれば催行を検討いたします。社会見学会(九月)も調整中です。
- 十二月に、協会設立四十周年記念懇親会を開催すべく検討しています。

【編集後記】季刊「亜東」夏季号

- 顧問よりのご寄稿有難う御座いました。メール添付原稿でしたので、編集が容易で、校正が無いため、大変助かりました。
 - 夏季号での写真は、大江副会長の秘書の方が、撮影されたものです。
 - 協会の活性化の為、会員の拡充を図っています。会員各位よりのご紹介をお待ち致しております。宜しくお願い申し上げます。
- 【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民国總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成23年 夏季号 (No.38)

発行日 : 平成23年7月15日

発行所 : 社団法人亜東親善協会

編集人 : 南部晴彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770

H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>

印刷 : ヨシダ印刷株式会社



私たちは、
「旅を咲かせる、花の翼」です。



中華航空
CHINA AIRLINES



<http://www.china-airlines.co.jp/>